



在宅について考える

がん対策基本法施行から8年。法律に定められた患者の思いに触れ、原点に立ち返りながら、現在のがん医療の在り方を考える。治療が終わったら在宅へという流れが加速しているが、現場はどうなっているのだろうか。がん拠点病院勤務医、在宅医、看護師、患者、遺族が一緒になって問題点と課題を議論します。

基調講演

「いのちのバトンを受け継いで ～最期の迎え方に思うこと～」 山本 ゆき 氏



がん患者サポートの会「ぎんなん」会員。大阪がん患者団体協議会の世話人を務め、ピアサポートの重要性から患者会の普及を呼びかける。夫は、がん対策基本法の成立(2006年6月)に尽力し、胸腺がんで死去した山本孝史参議院議員。「山本孝史のいのちのバトン」を主宰し、がん、自殺対策、被災地支援で活動。NPO法人「がん患者団体支援機構」理事、NPO法人「わたしのがんnet」代表。大阪府がん対策推進委員会委員。

講演 ～がん医療、在宅の現場から～

高島 勉 医師

(大阪市立大学大学院腫瘍外科)

西原 承浩 医師

(きむ医療連携クリニック・医師会会員)

横山 頼子 氏

(がん性疼痛専門看護師)



高島 勉 医師



西原 承浩 医師



横山 頼子 氏

シンポジウム「在宅について考える」司会：中村正廣医師（東成区医師会会長）

高島医師、西原医師、横山看護師と乳がん患者で卵巣がんの母を看取った河村美智子さん、遺族の山本ゆきさん、そしてコーディネーターを交えて在宅についての問題点と課題を議論します。

【日時】 2015年 **2/14** (土) 14:00～17:00 (開場 13:30)

【会場】 大阪市立大学医学部附属病院 5階講堂 (大阪市阿倍野区旭町1丁目5-7)

【対象】 どなたでも関心のある方

【申込・問合せ】

メール：gankangin@cscginnan.com

ファックス：06-6624-3019

携帯：090-7750-6323 (山本)

定員 **150**名

要申込み

入場料 無料

主催：がん患者サポートの会「ぎんなん」

共催：大阪市立大学医学部附属病院

後援：大阪府 / 大阪対がん協会 / 大阪府看護協会 / 大阪府医師会 (予定)

大阪大学がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

近畿大学がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

NPO法人 がん患者団体支援機構